



さかもと  
坂本 あや 議員

## 入野松原保全

# 松くい虫への対応は 伐倒し搬出、焼却して防ぐ

県は枯れたマツを伐採し、原因を調査した結果松くい虫の被害であったということだった。町の対策はどの程度進んでいるか。

また、これからの保全をどう行っていくのか。

### 答 今西 海洋森林課長

対松くい虫の被害は、昭和50年頃から発生し55年にはピークを迎え、平成4年までの被害は8千本にもなった。薬剤散布、伐倒駆除、薬剤注入など行ったが、樹齢数百年の大木は全滅した。

再起不能の状態の中、松原再生に町を挙げて取り組み、保存会も結成され、一斉清掃や植樹など

おこなったが、松くい虫の被害は継続し、町有林は、平成28年度には49本、29年度には1256本の被害があった。今年度は、既に826本を伐倒、場外搬出、焼却処理をしているが追加調査で、被害総数は町有林だけで2千本を越し、県有林、国有林を含めると、相当数の被害が想定される。今後も、マツノマダラカミキリの生育環境を断つために、伐倒駆除を行なったマツは、すべて場外搬出し焼却をする。

再生に向けては、既に11月に150本の植栽を行い、31年2月に500本程の植栽を保存会の協力を得ながら行う予定。



松枯れで伐採され、松の木が少なくなった入野松原（1月4日）

**問** 入野松原は防風防潮保安林や町の歴史、文化を継承してきた大切な場所だ。松枯れがひどく茶色く枯れたマツの姿が目立ち、町民も心配し、非常に寂しい思いをしている。

## 新国道56号

### 安全対策

### 万全に

関係機関に  
再度要望する

### 問

平成30年度中に完成予定の、国道56号大方改良事業の開通式はいつになるか。

また、20年かかった道路は、本当に安全な道になるか、事故のない安心して使える道ができるのか心配だ。今年の4月には、入野地区の改善を願う会と芝地区の連名で安全対策についての要望書を、国土交通省と中村警察署に提出した。11月28日には、入野地区の区長さんや地区の皆さんと、どのような道路が完成するのか説明してもらったが、参加者からは「信号機がない」「横断歩道がない」「歩道橋がないと避難時には横断できない」「道が暗い」との不安の声が多かった。私たちが願ったのは、ただ広だけの道



【現地視察】新旧国道が交差する箇所に信号機が設置できない（入野本村地区）

ではなく安全で事故のない道だ。  
開通までに関係機関と協議して安全対策を進めべきではないか。

### 答 金子 まちづくり課長

開通式の予定は、平成30年度中の開通が公表されているが、スケジュールについては、これから調整していく段階。  
安全確保については、

昨年度から、関係機関との合同現場視察を行い、国土交通省と町で高知県公安委員会を複数回にわ

道路の安全確保は重要なことだと考えており、現地視察でご意見をいただいた箇所や内容については町で取りまとめ、管轄する機関へ要望すると共に、今後も国土交通省とも連携し、要望を続けていく。